

■ 説明書

きのかおるたんかいのいえ 木の香る淡海の家		■ 設計期間 2006年8月～2007年5月
		■ 施工期間 2007年6月～2008年2月
■ 設計のテーマ	こどもと楽しく明るく元気に暮らす家 ～伝統的な部分も取り入れ、すっきりとした現代的な暮らし、人が集まる地域に開かれた住まい～	
■ 空間づくりのポイント	<p>● 家族の気配を常に感じるワークライフバランスを目指す住まい</p> <p>今回の住まいのテーマはワーキングマザーである建築主と創り上げていった。働く現代の家庭人にとって、仕事はフルタイムでも家事や育児をストレスなくこなし、家ではゆっくりとくつろげ、子どもは住まいの中でも地域の中でのびのびと成長して欲しいという願いは共通するものではないだろうか。空間の中で生活の機能性、家族間のコミュニケーションのしやすさを促すことで、それを実現したのがこの住まいである。</p> <p>空間のポイントは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家族の気配を感じる細やかな仕掛け→家族のコミュニケーションを促す ・ 適材適所の収納→簡単に片づくことで寛げる時間と空間を確保 ・ 家事動線の短縮、ストレスを減らす工夫→家事育児負担の軽減 ・ 引戸の多用による空間のフレキシブルさ→生活変化や来客への対応 <p>仕事においては家族との生活を確保するため、会社での残業ではなく自宅でミーティングを開くことを想定したり、地域生活においては、子育て中の親子に住まいを開放したりと、住まいを個人の活動だけに留まらない使い方を想定している。</p>	
■ 住文化の継承と発展	<p>● 滋賀県産木材の活用</p> <p>地元「びわ湖材」の普及と流通を目指し、県産木材活用推進協議会より「長寿命住宅」の新設に当たり提供される柱と同材の県産材を軸組材に使用。</p> <p>● 地域風土を考慮したデザイン形態と性能を持つ住まい</p> <p>本住宅は形態と意匠の制限がある地区計画区域内に建っており、10分の3以上の屋根勾配が指定の中、冬至と夏至の陽の入り方も検討した上で片流れの屋根を採用。屋根に対して袖壁を伸ばすデザインは、建物形態を生かす意匠性に加え、積雪地域の風雪対策も兼ねた気候風土への配慮である。</p> <p>建物のポイントは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 風土、地域性の考慮、風雪対策、断熱性能の確保 ・ 通気層工法、次世代省エネルギー基準の採用 ・ 高耐久性の素材選定、メンテナンスのしやすさ ・ 国産材、自然素材の活用 <p>● 高耐久性の住まい</p> <p>滋賀には瓦屋根に板張りや漆喰壁の伝統的な民家も多く残っており、それが町並みを形成している。今回は耐久性とメンテナンスをフリーにしたいという建築主の要望も大きく、金属製の屋根と壁という選択になったが、現代の材料を用いながら、深い軒や大屋根により現代の滋賀の民家を表現した。</p> <p>● 地元の金物作家とのコラボレーションにより、現代的であるが伝統的な部分も取り入れた住まい</p> <p>着物や茶道の文化が生活にも根強く残る滋賀の暮らしの中で、若い世代にも受け入れられやすいモダン和室を提案。地元の金物作家と空間に合わせ、落し掛け風のオブジェと花器を設置することにより現代床の間を実現。若い世代が地域の暮らしの文化を引き継ぎ、更に新しい文化を発信していくことを期待している。</p>	